

大分医療センター  
広報誌

vol. 13  
2021年 新春

# あいしん 大分

40th  
Anniversary  
OITA MEDICAL CENTER  
地域に愛される医療をめざして。

新年のご挨拶

院長	2
副院長	4
統括診療部長	5
事務部長	7
看護部長	8
薬剤部長	9
連携医療機関のご紹介	10
人事異動	11
外来診察医担当表	12



日本一の大熊手と大絵馬（撮影：梅木 祐）

# 2021年 新年の挨拶



院長  
穴井 秀明

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。今年は令和3年ですが令和になって2度目の正月です。本年もどうぞよろしく願いいたします。

昨年2020年はコロナで始まり、コロナで終わり、オリンピックも吹っ飛んだ一生記憶に残る散々な年になりました。COVID-19は2019年12月中華人民共和国の武漢市で集団発生し、日本では第1例目が2020年1月16日に報告され、大分県では3月3日に第1例目が報告されました。2020年春分の日3連休前日の3月19日、当院における新型コロナウイルス感染の第1例目と第2例目が突然発覚しました。当院関係の患者は14名、当院職員が10名の計24名のクラスターが発生しました。その後、職員が一丸となって感染防止対策を行い、見事に立ち直る事ができました。この混乱の中、目に見えない敵にこれといった武器もなく戦ってこられた職員の皆様に心より感謝申し上げます、敬意を表します。

今、まさにCOVID-19の第1波、第2波より、格段大きな第3波が押し寄せてきています。COVID-19に対するワクチンや特効薬はまだありませんが、抗原定性、抗原定量のキットやPCR検査装置も院内に設置することができ、ある程度、敵（新型コロナウイルス）を確認することができるようになりました。当院

は感染症指定医療機関ではなく、陰圧室也没有でしたが、最前線で戦っている職員を守るために、ようやく陰圧装置設置の目途もたちました。

第1次のクラスターが収束して、やっと軌道に乗ってきたとき、年末にまた突然、第2次のクラスターが発生しました。3月のクラスター発生以来、職員の皆様の徹底した感染防止対策にも関わらず、COVID-19が出てしまいました。とても残念なことでした。まさにコロナで終わった1年でした。

COVID-19との戦いは、医師、看護師だけでなく、検査部、放射線部等のコメディカルの皆様や後方支援をする事務方、清掃関係等委託業者の皆様、全ての当院職員一人一人が関わっています。コロナ禍ということで、通常なら手に入らない、PCR検査装置や簡易型陰圧装置などの感染対策機器がたくさん常備されました。これから、また来るであろう未知の新興感染症にある程度、対応出来るようになりました。このクラスターとの戦いは決して無駄ではなく、未来の医療へとつながる糧となると確信しています。

このコロナ禍にあって、病院にとって最も大きな収穫がありました。「転んでもただでは起きない」や「怪我の功名」の類いです。入院基本料の上位獲得です。当院は10：1急性期入院基本料(4)で10：1のまま

では、これ以上は一切取得出来ないことになっていました。ところが、コロナ禍で入院患者が激減して、一時期相対的に7：1急性期入院基本料(1)がとれました。その後、入院患者が増加してきて10：1に戻りましたが、この時は10：1急性期入院基本料(2)と急性期看護補助体制加算(25：1)が取得出来、入院基本料(急性期看護補助体制加算含む)が当初の1,640点から1,859点へ、219点の増加になりました。このことは今後、当院の大きな経営基盤となります。私にとってみたら夢みたいな出来事でした。超ウルトラCでした。

COVID-19に関して、ぱっと夜が明けることはないでしょうが、冬至から夏至にいくように少しずつ日が長くなり明るくなっていくように終息するのではないのでしょうか。職員の皆様はこれからも忍耐強く「入れない、広げない、つぶさない」の「3ない」を合い言葉に職務に励んで下さい。

平成29年12月、地域包括ケア病棟として5階病棟60床が稼働しました。平成31年4月から24時間体制の訪問看護ステーションも開設しました。当院はDPC病棟をはじめ、地域包括ケア病棟、訪問看護ステーションをもつ事になりました。これは地域包括ケアシステムとして、急性期から、慢性期、在宅へと一連のつながりが出来上がった事を示します。介護も含

む地域医療、医師会とも連携する質の高い医療体制ができたと思っています。

今年も昨年に続く院内ルールの統一化を目指しましょう。これは働き方改革でもあります。「同一事項、同一ルール」ということです。同じことをするのに各病棟、各部署できまり(ルール)が同じでなく、ローカルルールがまだまだたくさん存在しています。職員がどの病棟、どの部署で働いても、同一事項に対しては同一のルールで対応することが医療安全上、最も大事だと思っています。全職員一丸となって取り組んでいきましょう。

今年(ウシ)年は牛のようにドッシリかまえてノッシノッシと前進していくことを祈念致します。皆様にとって、また病院にとっても素晴らしい年でありますようにお祈り申し上げます。

# 2021年 新年の挨拶



副院長  
奈須伸吉

皆様、新年明けましておめでとうございます。まず、各医療施設で新型コロナウイルス感染症と戦っている全職員を労いたいと思います。そして、新型コロナウイルスに感染して亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、一人でも多くの方が早く回復しますよう願っています。

2020年はウイルスパンデミック一色でした。いつの日か日本も、新型ウイルス禍に必ず晒されるとの予想は知っていましたが、中国などで新型コロナウイルス感染症が蔓延した時点では、日本も被害から逃れられないだろうと覚悟はしていました。しかし、当院は一昨年末から忘新年会やイベントのほとんどを中止し、当院なりに色々な院内感染対策を行っていましたので、まさか九州初の院内クラスター発生病院になり、その上2度目のクラスターまで起きる事になるとは。今、第3波で多数の病院でクラスターが起きている現状を見ると、ウイルスの感染力が強くなり容易に対処し難い相手になっているようにも思えます。

私自身もコロナ対策に多くの時間を取られています。副院長の業務は、業務量が多いものから①医療安全管理②病院運営（会議、経営含む）③病診連携④院内感染対策⑤情報管理 等々でしたが、今年は④院内感染対策の業務量が激増し①並みになっています。感染流行が拡大したため病診連携訪問を控え目にして③の業務が減少したことと、穴井院長がしっかりと病院を東ねていただいているので、私は今まで何とか務まっています。

自分が現職の間に、人類史上に残る大災害を経験することになりましたが、コロナ禍が去った後はそれ以前の日常生活を見直すきっかけにしたいですね。きっと、今回のウイルス禍は、人類に対してこれからつましく生きてゆくようにとの神の啓示なのかもしれません。

本年は丑年、耐えながら芽が出る前触れの年だそうです。皆さんさぞ大変でしょうが、今は“耐える力”を養う時期なのでしょう。この経験は先々必ず役立ちますので、もうしばらくの間は、上手に息抜きをしながらコツコツやりましょうね。ただし、きつい時は早めに相談してください。

院内にはエールの花壇が2か所あり、時間を見つけては数人の職員で水やりや手入れをしています。外に出ることが出来ない入院患者さんや職員のために少しでも癒しになれば良いと思っています。やがてパンデミックの嵐は鎮まり、春に夏に花壇の花が咲き、落ち着いた日常生活を送れるようになりますよ。

今年はきっと明るい年になると信じています。本年もどうぞよろしく願いいたします。

おもしろきこともなき世をおもしろく

すみなすものは心なりけり

（高杉晋作 辞世の句）

# 2021年 新年の挨拶



統括診療部長

中村 雄介

明けましておめでとうございます。

昨年中は、ご迷惑、ご心配をおかけいたしました。今年こそ、いい年になりますように、祈念させていただきます。

さて、マスクの歴史を紐解いてみますと、感染予防具としての始まりは1910-1911に満州で伝染病が流行のとき、中国人医師伍連徳が広めたとされております。日本では、鉾山粉塵用のマスクが、スペイン風邪(1917-1920)の流行に際し、予防具として用いられるようになりました。

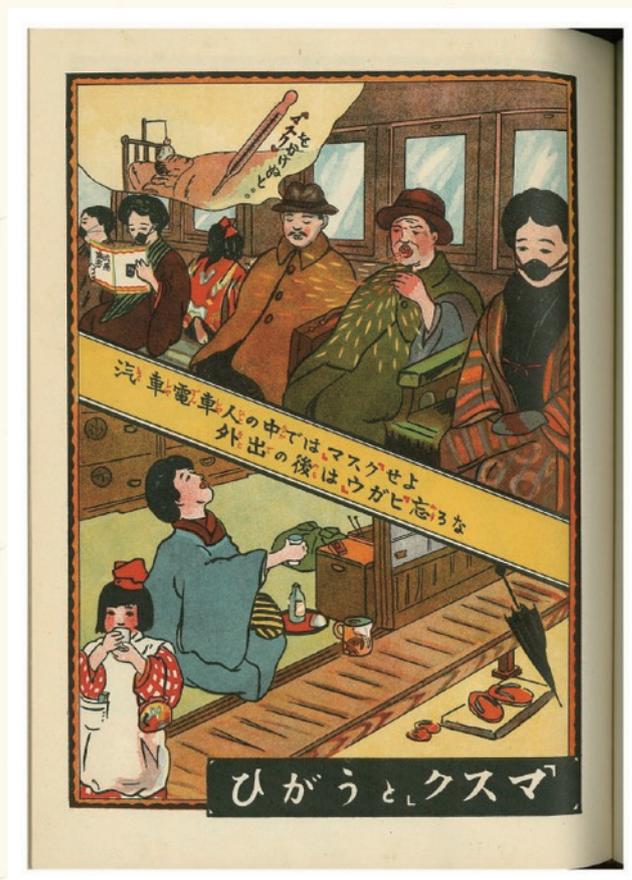
当時(1920年7月)、発表された菊池寛の小説に「マスク」というのがあります。いまでも、菊池寛記念館のホームページで無料で読むことができます。30代前半であった菊池が「スペインかぜ」流行の経験の小説にしたものです。自分の体の弱いことを自覚した菊池が、流行性感冒で、予防のため外出を控えるようにしたことが書かれています。本人はもちろん、妻や女中にも控えるように言いつけたそうです。そして、朝晩うがい、出かけるときはマスク、帰ったら、またうがいを行っていました。来客にも神経質になり、咳をしている人や熱っぽい人が来たときは、帰った後に暗い気持ちになります。一時的に患者数が減少した時期に、周りの人たちがマスクを外すようになって、感染を心配した菊池はつけ続けていました。そんな時には、同じようにマスクをつけている人を見ると、頼もしく感じ、ある種の同士であると感じたそうです。その後、菊池も徐々にマスクをつけなくなったのです

が、流行性感冒がぶり返したという記事の新聞を見つけ、「イヤな気になった」そうです。晴天のある日、陽気が良いので、マスクをせずに、野球を見に行ったところ、自分を追い越した青年が黒いマスクをしているのを見て、ショックを受け、憎悪を感じました。天気の良い日の野球の観戦といった楽しい時間に、忘れていた感冒の脅威を思い出させられたからでしょう。自分がマスクをつけているときは、マスクをつけている人を見るのが嬉しかったのに、マスクをつけなくなると、つけている人に不快感を感じる正直な作者の気持ちが伝わってくるようです。人は心の立ち位置で、正反対の感情が起きてくることがあります。コロナの時期だからこそ、反対側にいた時の感情を思い出し、陥りやすい負の感情を治めたいものです。

スペイン風邪からの100年間で、我々は感染症に対して、ワクチンや抗ウイルス薬などいくつかの対抗手段を手に入れてきました。新しく加わったものの一つに、スーパーコンピューターによるシミュレーションがあります。仮説を立て、膨大な量の計算を行わせ、結果を推定し対策の方針を立てるものです。「2位じゃだめなんですか」と事業仕分けで追及された「京(けい)」の後継機である世界最速コンピューター「富岳」は、理研開発の流体解析ソフト「Cube」を使い「落ちる飛沫と漂うエアロゾル」の2つをポイントとしてのシミュレーションを行っています。流行当初、WHOやCDCで行われたフィルター性能だけの検討で「マスクは効果がない」と評価を受けました。「富

岳」は、数千件以上のシミュレーションで、「不織布、ポリエステル、綿のマスクでも相当の効果が得られる」、「マスクで体内への飛沫到達量を1/3にできる」などの結果を出しています。もちろん、シミュレーションである以上、設定する条件次第で、異なった結果になることはありえます。しかし、事例との検証を重ねていくことで、確かなものになっていくはずです。今後、感染対策の上で、頼もしい助っ人になってくれると信じています。

今でも、昔でも、感染は、人と人のコミュニケーションを分断します。家族や知人とも容易に会えない、野球の試合、観劇、ライブコンサート、旅行、飲み会など多くの交わりが制限されています。コロナの状況下、私たちは何を感じ、どのように支え合えば、「新しい日常」を獲得できるのかを試されているのです。



内務省衛生局著 「流行性感冒」(1922.3)より

# 新年のご挨拶



事務部長

秋好輝雪

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨年の出来事を振り返るうえで、やはり新型コロナウイルスのことを避けて通ることはできません。ちょうど1年前、ダイヤモンドプリンセス号の乗客が新型コロナウイルスに感染し、その頃から日本でも新型コロナウイルスが大きく注目され始めました。そして3月19日に当院でクラスターが発生…今では日本全国至るところでクラスターが発生していますが、当時はまだ少なく、病院が受けた衝撃と風評被害は計り知れませんでした。その後、職員一丸となって感染防止対策に取り組み、職員一人ひとりが自分の役割をしっかり果たしていただいたおかげで、9月以降はコロナ禍における病院運営もようやく落ち着きを取り戻してきました。予定されていた院内行事もほとんどが中止となり、職員間の交流も、院外での家族以外の飲食も自粛を余儀なくされました。そんな息苦しい中においても職員の皆さんは、医療従事者としての自覚をもって行動していただきました。しかし、年末…、2回目のクラスターが起きてしまいました。どこに潜んでいるのか全く分からないウイルスとの戦い…

昨年、12月21日から院内で抗原定量検査とPCR検査ができる体制が整った矢先の出来事でした。もっと早く整備できていれば…わずかでも感染拡大が防げたのではないかと…今回のクラスターで感染された患者さんご家族の皆様には大変申し訳なく、心よりお見舞い申し上げます。また、未知のウイルスと向き合いながら懸命に治療に当たられている職員の皆さんは私達職員の誇りです。

年が明け2021年になりました。今しばらくはコロナウイルスとの戦いは続きます。しかし、必ず戦いは終わります。当院には、これから5年後、10年後を見据え、手術棟、外来管理棟の建替整備など、明るい未来が待っています。コロナ禍でもただでは転びません。苦しい病院運営の中でこそ掴めること、学べることがあると信じています。今年も職員の皆さんと共に前に進んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

# 新年の挨拶



看護部長  
佐々木 容子

あけましておめでとうございます。

今年は多くの方が例年と異なる静かなお正月をお迎えになられたことと思います。昨年は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年となりました。今まで当たり前できていたことができなくなり、多くの変化に対応せざるを得ない生活を経験し、閉塞感ばかりが積もったように思います。今年は少しでも早いコロナの終息と希望の持てる年になることを祈るばかりです。

当院ではクラスター発生により患者さまやご家族の方をはじめ、関係医療機関、施設等多くの方々にご心配とご迷惑をおかけ致しましたこと、心よりお詫び申し上げます。感染対策には十分に気を付けていたところですが、振り返ると3月の経験が十分に活かされていなかったところも見られます。再度しっかりと検証して、患者さん、そしてスタッフを守るための教育や環境づくりに取り組んでいきたいと思っております。

今年の干支は辛丑（かのとうし）です。辛丑は変化が生まれる状態、新たな生命がきざし始める状態で、新しいことにチャレンジするのに適した年と言えるそ

うです。患者さんが安心して継続した医療、看護が受けられるように、そして地域の中で当院の役割が果たせるように、良い方向に進んでいけるよう、何事にも前を向いて、努力を重ねる1年にしたいと思います。どうぞよろしく願い致します。



# 新年のあいさつ

薬剤部長  
吉野 裕 統



あけましておめでとうございます。

大分に赴任して4回目の正月を迎えることができました。

4年目を迎えるにあたり、一つの目標を立てました。数年前から普及を目指している薬剤師の能力開発・人材育成プログラム“NHO PAD”を活用しやすい形にすることです。チェック項目を問題集形式にして、自己評価と教育者指標を合わせた大分医療センター版薬剤師プログラムを作成してみました。国立病院総合医学会に投稿しましたが、今回は、Web版学会で時代の流れか「いいね！」の投票があり、少し評価をいただきました。

それにしても昨年はキャッチフレーズの重要性を改めて感じました。「三密」は国民共通語になりました。油屋熊八は語呂よく「山は富士、海は瀬戸内海、湯は別府」で別府の名前を全国に広めました。何か薬剤師プログラムのキャッチフレーズを作れなかったものかと反省しているところです。

昨年の薬剤部は定員を満たすことができず、それまでの業務を縮小させていただきました。目に見えるところ、見えないところ迷惑をかけたのではないかと申

し訳なく思っている次第です。この1年は全世界、日本中、未知の敵との戦う特別な日々の中、新たな活路を見出そうと業務や生活に大きな変化がありました。薬剤部は減員の中、何ができたか整理したいと思います。

そんな中、昨年の朝ドラの「エール」の世相や時代に悩みながら生きていく天才作曲家の生き様に見入ってしまいました。楽器を使わずに譜面を書き上げる作曲家です。凡人には理解できません。耳が聞こえなくなっても作曲を続けたベートーベンの生誕250年でもありました。シューベルトは「ベートーベンの後に何ができるのか。」とまで言っています。そういえば、初めてカラオケで歌ったのはシューベルトの「風」だったなあと思い出したりもしました。

今年は丑です。要領がよい者に先を越され2番目の干支になりましたが、正直者、地道のイメージです。見習いたいと思います。何事もゆっくり一步一步、確実に進めることを目指し、ほめられもせず、くにもされず、さういうものにわたしはなりたいと思います。



# 連携医療機関のご紹介

## 臼杵わかばクリニック

所在地	〒875-0023 臼杵市大字江無田字桶ノ内323-1
TEL/FAX	0972-62-3838 / 0972-62-2800
診療科目	内科・外科・消化器内科（内視鏡）・ペインクリニック・整形外科
病床数	なし
診療時間	午前 月～土 8:30～12:30 午後 月～金 14:00～18:00
休診日	土曜日午後・日曜日・祝日



院長 安江 和彦



地元臼杵に開業して10年を迎えます。大分医大第二外科出身で胸部、腹部の外科を中心に診療しておりました。救急の場面に関わることも多く、他科の先生方にも多大なるご指導を頂きました。開業後は年齢や外科内科を問わず広く診させて頂いております。急性疾患や外傷から生活習慣病、消化器内視鏡、膝痛・腰痛、認知症や介護のこと、学校健診などなど…。

医療センターの先生方にはとても近しく連携させて頂き、より高度な診断治療を頂き、いつも助けられております。

今後も使える町医者となれるよう精一杯頑張ります。



# 人事異動

## 退職・転出等

発令事項	発令日	職名	氏名	備考
退職	R2.12.31	看護師	渋谷 美奈	
退職	R2.12.31	看護師	志水 歩実	
退職	R2.12.31	看護師	岩田 玉枝	
退職	R2.12.31	事務助手	志賀美穂子	
退職	R3. 1.20	医師事務作業補助者	庄司美智子	

## 採用・転入等

発令事項	発令日	職名	氏名	備考
採用	R2.12.22	事務助手	佐藤 直美	
採用	R2.12.22	看護助手	房崎 明美	
採用	R3. 1. 4	事務助手	三浦 久	



## 基本理念

「愛の心・手」で  
病める人々に寄りそう医療

## 基本方針

- 365日24時間断らない診療を目指します
- 大分県地域医療支援病院として、地域へ貢献します
- 大分県がん診療連携協力病院として、がん診療の充実に努めます
- 垣根を越えた連携によるチーム医療の充実に努めます
- 地域に根ざした積極的な広報活動と情報発信に努めます
- 安定した医療を提供するため、健全経営を志向します

## 大分医療センターのロゴマークについて



### 全体のコンセプト

Oita National Hospital (旧国立大分病院)の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。

- 「緑と赤」… 昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。
- 「青」…… 大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。
- 「黒」…… 地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。



表紙の写真や大分医療センターのなつかしい写真を募集します。  
ぜひ編集委員へご提供ください！

## 編集委員

委員長 奈須 伸吉  
委員 秋好 輝雪 石川 秀利 森崎 久美 梅木 祐 村上 英恵 竹田津 雄介

# 外来診察医担当表

【令和3年1月1日現在】

■ 受付時間 8:30~11:00  
 ■ 診察開始時間 8:30~

※予約の変更は月~金の各13:00~15:00にご連絡ください。  
 (総合支援センター) ☎ 097-593-1112 fax 097-528-9651

【一般外来】 ※連携医療機関の方は8:30~17:15に総合支援センター(地域医療連携部門)へご連絡ください。

診療科 曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
代謝・内分泌内科	桑畑 真亮 野中 良平(新患)	嶋崎 貴信 野中 良平 桑畑 真亮(新患)	嶋崎 貴信 桑畑 真亮 野中 良平(新患)	嶋崎 貴信 野中 良平 桑畑 真亮(新患)	嶋崎 貴信 桑畑 真亮 野中 良平(新患)
腎臓内科			竹野 貴志(予約制)		
膠原病内科			安倍いとみ(予約制)	梅木 達仁 (予約制 第1・第3・第5週)	
消化器内科 (肝センター)	草津 工喜 山下 勉 大塚雄一郎	本田俊一郎 室 豊吉 山下 勉	山下(~10:00)/平江 山下 勉(10:00~) 福田 春菜	福田 春菜 山下 勉 草津 工喜	大塚雄一郎 本田俊一郎
工 科	福田 春菜	大塚(~10:00)/平江	草津 工喜	本田俊一郎	山下(~10:00)/平江
循環器内科	有川 雅也 和田 雅登	有川 雅也 棚澤 晃大	吉村誠一郎 棚澤 晃大	吉村誠一郎 和田 雅登	有川 雅也 和田 雅登
呼吸器内科 (呼吸器センター)	大谷 哲史(新患) 宮崎幸太郎	大谷 哲史 横山 敦(新患)	横山 敦(新患) 宮崎幸太郎	大谷 哲史 宮崎幸太郎(新患)	大谷 哲史(新患) 横山 敦
腫瘍内科				西川 和男 ※受付時間8:30~11:00 診療時間8:30~	樋園 和仁(血液疾患) ※受付時間 新患13:00~14:00 再来13:00~15:00 診療時間13:00~
外科	梶島 章 梅田 健二	穴井 秀明	矢田 一宏 梶島 章	梅田 健二 是久翔太郎	矢田 一宏 一万田充洋
乳腺外科	武内 秀也※	※第1・第3月曜日 受付時間10:00~12:00 診療時間10:00~13:00のみ			
呼吸器外科	(手術日)	高祖 英典	高祖 英典	(手術日)	高祖 英典
整形外科	田畑 知法 膳所 大亮	田畑 知法 膳所 大亮	(手術日)	田畑 知法 膳所 大亮	金曜新患受付10時まで 田畑 知法 膳所 大亮
泌尿器科	午前 住野 泰弘 奈須 伸吉 高橋 剛	午前(10時まで) 高橋 剛(新患) 住野 泰弘(新患)	午前 高橋 剛 住野 泰弘 奈須 伸吉	午前(10時まで) 住野 泰弘(新患) 高橋 剛(新患) 中島 駿佑(新患)	午前 高橋 剛 奈須 伸吉 住野 泰弘
	新患担当は当科で振分けます。(紹介は「外来担当医」宛て)				
	午後(予約のみ) 各医師で分担				
婦人科	岡田さおり	岡田さおり	梶原 由衣(午前) 西田 欣広(午後) ※受付時間14:00~16:30 診療時間14:00~17:00	岡田さおり	梶原 由衣
放射線科	中村 雄介	牧瀬 智(午前) 本村 有史(午後)	中村 雄介	牧瀬 智(午前) 本村 有史(午後)	中村 雄介
内視鏡 (胃腸センター)	本田俊一郎 平江 麻衣	草津 工喜 福田 春菜	本田俊一郎 大塚雄一郎	大塚雄一郎 平江 麻衣	山下 勉 草津 工喜 福田 春菜
内科系疾患で 専門診療科の判断が困難 な場合の担当科	消化器内科	代謝・内分泌内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科

【特殊外来のご案内】 ※完全予約制となっておりますので、下記にご連絡ください。

ひまん外来	毎週 金曜日 (祝日を除く)	診察時間 14:00~16:00	TEL 097-593-1111 (内線235)
ストーマ外来	毎週 金曜日 (祝日を除く)	診察時間 9:00~12:00	TEL 097-593-1111 (内線711)
緩和ケア外来	毎週 水曜日 (祝日を除く)	診察時間 11:00~12:00	TEL 097-593-1111 (内線739)
フットケア外来	第2・第4 火曜日 (祝日を除く)	診察時間 8:30~11:00	TEL 097-593-1111 (内線235)



地域医療支援病院 日本医療機能評価機構 認定病院

独立行政法人  
国立病院機構

大分医療センター

<https://oita.hosp.go.jp>



〒870-0263 大分市横田2丁目11番45号 TEL097-593-1111 FAX097-593-3106 / 総合支援センター直通 TEL097-593-1112 FAX097-528-9651